

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 27 年度相模原市地域保健医療審議会 保健医療計画推進部会				
事務局 (担当課)		健康福祉局保健所地域保健課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 4 1 (直通)				
開催日時		平成 27 年 11 月 9 日 (月) 午後 7 時 30 分から午後 9 時 15 分まで				
開催場所		総合保健医療センター A 館 7 階 視聴覚室				
出席者	委員	7 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	20 人 (保健所長 他 19 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 委員紹介 3 相模原市保健医療計画推進体制について 4 議題 (1) 主な事業の進捗状況について (2) その他				

審 議 経 過

部会の冒頭、出席委員の人数が定足数に達していることを確認し、相模原市保健医療計画の概要及び推進体制について説明した後、議題について審議した。

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

妊婦歯科健康診査事業について、97.5%が集団形式を希望し、集団形式が妊婦にとって受講しやすい形式であるとされているが、アンケートの対象が受診率4%(受検者218人)のいずれも集団健診に参加できる人であること等を良く考慮して、受診率の向上につながる方策を検討していく必要があると考える。

アンケートから集団健診に一定のニーズがあることは一つ言えるところと考える。しかし、委員の言われるように受診率向上のため集団健診だけにとらわれずあり方を検討していく。

現在、成人歯科健康診査では、対象年齢が40歳から80歳までであるため、妊産期の年齢が対象から外れている状況にある。生まれてくる子にとっては妊娠期に母親がむし歯予防・歯周病予防の知識・意識を持つことが始まりになるところであり、かかりつけ歯科医を増やしていく意味でも、受診者数増に向け検討をお願いする。

妊産期を含め、かかりつけ歯科医を増やすことは重要なことと受け止めているため、検討していきたい。

高齢者の運動習慣を定着する事業については重要であることから、引き続き取り組んでいただきたい。

喫煙防止対策事業について、中学校や高校からでは遅いと思われる。健康づくり普及員活動の一環として小学校において6年生等を対象に、喫煙が心身に及ぼす悪影響等について啓発に努めているが、児童の関心は高いと受け止めている。是非、小学校から喫煙防止の啓発を実施していただくことを要望する。

がん検診の受診率が低いと思われるが、今後、どのようにアプローチしていこうと考えているのか。

子宮頸がんについて20代前半の受診率が低い中で、大学や短期大学での健康教育が有効であったため、今後もさまざまな団体と連携して効果的な普及啓発を検討していく。

口腔がん検診は、年3回、1回につき60人を対象に実施しているが、更なる充実を図ることを望むが市ではどう考えているのか。

現在の事業のあり方などを点検中であるため、その結果を踏まえ検討していく。

人間ドック等助成事業では、実績が少ないと思われる。対象者が国民健康保険加入者であると特定健診事業も行っている影響もあると思われるが、対象者は国民健康保険加入者なのか。

この事業は、勤労者福祉サービスセンターと連携をしている事業であり、中小企業勤務者を対象としている。そのため、国民健康保険加入者よりも社会保険、いわゆる協会けんぽ加入者が多い。

今後、更なる周知が必要と思われるため、お願いしたい。

災害時医療について、避難所と救護所が同一場所に設置される場合にはうまく住み分ける必要があるが、学校によっては救護所の場所が足りないという声を聞く。避難所運営協議会や学校と救護所の設置担当が、住み分け等について話し合う機会（予定）はあるか。

今後、情報交換など行えるよう検討したいと考える。

早急に話し合う必要があると考えるので、検討をお願いする。

訪問指導事業において、在宅療養児把握件数（医療機器使用）が67件とあるが、これは全体に対してかなり限られた件数と推察される。重症心身障害児や小児慢性特定疾病医療費助成の申請等をしている児童をはじめ、在宅療養児を支援していくためには、市・医療機関・訪問看護事業者などの連携が重要と考えるが、市ではどのように考えているか。

大変申し訳ありませんが、本日の会議に障害の関係を所管する市職員が不在のため、後日、個別に回答させていただきたい。

難病や小児特定慢性疾病について、法改正がされたが保健医療計画との整合性は取れているのか。(保健医療計画の進行管理の中ではどのように取り込まれているのか)

患者の成長に伴って小児慢性特定疾病から指定難病へ移行される場合は、切れ目のない支援を行えるよう対応していく。

難病対策事業のうち、ホームヘルパーの養成講座の参加者は施設従事者が多いのか。

参加に条件は無いが、施設従事者が多い。

こんにちは赤ちゃん事業の訪問件数は、訪問延べ件数なのか。また、訪問しているのは保健師なのか。

出生数に対する訪問件数であるため、複数回訪問しても1件としている。なお、多胎児の場合は子どもの数で重複している。

最初の訪問は、保健師や助産師、看護師などの非常勤特別職の母子訪問相談員で対応しており、引き続き訪問が必要な場合には、常勤の保健師が引継ぎ対応している。

引き続き、ぜひ充実に努めていただきたい。

現在、歯科医師会では在宅口腔ケアや訪問歯科診療などを実施しているところであるが、在宅療養者については医科と歯科で重なるところがあるところから、医師会の先生方と在宅患者について情報共有できる機会を作っていただけるとありがたい。

急病診療事業について、医師会や医療関係団体と立ち上げた医療対策協議会(救急医療対策)の取組状況は。

救急医療対策会議はこれまでに2回開催したところ。北メディカルセンターの診療科目や、西メディカルセンターのあり方等を含め、市全体の救急医療体制について検討を行っている。

結核対策事業の抗結核薬の服薬支援(DOTS)について、薬局

からの取組状況は。

平成26年度服薬支援の状況として、薬局では86か所、訪問服薬支援員では14名の方に御協力いただいている。

薬物乱用防止対策事業の学校による取組状況は。

平成26年度は、中学校で10校を実施した。

個別予防接種事業について、相模原市では良く取組んでいると思う。水痘や肺炎球菌、ヒブワクチンの接種により重症感染症の患者が大幅に減少したと感じている。今後も医療費の抑制を図るためにも未然防止である予防接種事業に取り組んでいただきたい。

また、健康危機管理事業では、新型インフルエンザ等の発生時に対する検討を進めているところである。

感染症発生動向調査について、協力医療機関のみへ情報提供しているのか。市内の状況をよく周知していただきたい。

市のホームページに掲載し、毎週更新しているところであり、小・中学校等におけるインフルエンザ等の学級閉鎖の情報の情報についても掲載している。

日本脳炎について一時期予防接種を中止していた期間があるが、その時期に接種できなかった者への対応は。

救済措置が設けられているが、個々の状況で対応が変わるため、詳しくは、市（疾病対策課）へお問い合わせしていただきたい。

各地域の健康づくり普及員は、健康に関する勉強をしてきている。是非、各学校で活用していただきたい。

ご協力いただくことに感謝する。各学校へ周知していく。

災害時に救護所へ看護師を派遣するには、看護協会では指揮命令権が無い。病院の協力を得て派遣したいが、考えは。

災害時は、様々な課題があるため、その課題を整理しながら検討

していきたい。

最後に、会長から事務局に対し、本日の部会での各委員からの意見や要望を十分に踏まえ今後の事業を進めるよう要望され、閉会。

以 上

平成 27 年度 相模原市地域保健医療審議会保健医療計画推進部会

出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠
1	大山 宜秀	一般社団法人相模原市医師会	会長	出席
2	井上 俊彦	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
3	大岡 元	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
4	佐藤 美樹	公益社団法人神奈川県看護協会 相模原支部		出席
5	高部 博	社会福祉法人相模原市社会福祉協 議会		欠席
6	湯田 里子	相模原市食生活改善推進団体 わかな会		出席
7	永富 多美子	相模原市健康づくり普及員連絡会		出席
8	勝村 尚子	特定非営利活動法人神奈川県歯科 衛生士会相模原支部		出席